



自己肯定感を高める授業をめざして

校内授業研究 1年 道徳科「くりのみ」 太田 麻葵 教諭
 講師 山田 貞二 先生（岐阜聖徳学園大学 准教授）

21 くりのみ

ビュー。ビューと、きたかぜのふいて いる はらっぱで、きつねが、うさぎに ばったり てあいました。「うさぎさん、うさぎさん。そんなにいそいで どこへ いくのですか。」と、きつねが ききました。「たべものを みつけに いく ところです。あなたは どちらへ」と、うさぎは いいました。



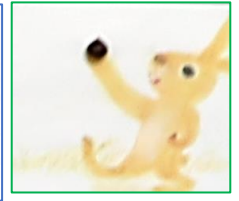
友達がこぼした給食を一緒に片づけたり、落とし物を拾ったり、泣いている子に優しく声をかける太田学級の子供たち。優しくする、助ける姿が多くみられ、さらに思いやりをもち、温かい心で人と関わるよさを本教材で再認識してほしいと願いをかけます。

本時では、相手のことを考え、周りにいる人たちに思いやりをもってかかわろうとする気持ちをもつ姿があったかどうかです。



まず、場面絵の提示とともに教師が範読。季節、きつねとうさぎの関係を確認したあと「うさぎはどんな人かな？」と課題を設定。「何で優しい、親切だと思った？」とうさぎの視点で迫りました。そして、『しばらく考えて』(T1 ●)の部分で一度立ち止まりました。

「かわいそう」と考える子、さらにあげるか、あげないでおこうか迷い、同じように考えた子(C13)が。振り返りで、うそつきのきつねにC11のように2個あげて、あとで再度探せばいいと究極の優しさで考える子も。



協議会では、動作化の有無、きつねの涙の意味、板書の仕方、命まで迫る価値、など意見を出し合いました。講師の山田先生

から、「納得解」で特に弱い自分、もやもや感をさらけ出すこと、授業づくりでは、①「多面的」(拡散・認め合い)→②「多角的」(収束・磨き合い)で



あること、役割演技の際に「心の数直線」の活用方法を実演と共に研修しました。

私ならC12のあと、「**自分がうさぎさんだったらどうする?**」

と揺さぶり、子供がうさぎ→きつねの目線へと期待しますが、いかがでしょうか。

山田先生のテーマ「うれしい、楽しい、道徳大好き！」を今後も大切に、考え議論する道徳の授業研究を進めます。



<授業記録より一部抜粋、編集>

T1 ●:「しばらく考えていました」の何考えていたのか、また隣同士、近くの人と話してみて。・・・(2分)・・・

-<略>-

C7: きつねは、一つも食べてないんだよ。
 C8: かわいそう。
 C9: もし見つけて、きつねにあげようかを考えてた。

T10: 見つけたくりの実を?
 C11: 分けてあげるか、そのままあげる。
 C12: **①あげようかな、②あげないでおこうかな。**

C13 (つぶやく数人): **同じ**
 T14: **①あげようかな、って思ったのは何で?**
 C12: きつね一つもたべてないし
 T15: **②何であげないでおこうかなって思ったの?**

C12: うそついて食べてた。
 T16: 隠してるってさあ、うさぎ知ってた?
 C17 (つぶやき多数): 知らない! 見てないから知らない。
 T18: じゃあ何であげないでおこうと思うの?